

“Heart to Heart”

第6巻 第2号 (No.18)

発行日 平成23年12月3日

心から心へ わかちあう あたたかさ

目次:

コミュニケーションの道のり	1
コラム：出会い（1） あるお母さんとの出会い	2
療育プログラムのようす	2・3
コラム：インクルーシブ教育シ ステム構築という流れの中で(1)	4
教育センターからのご案内	4

コミュニケーションの道のり

武蔵野東教育センター所長 長内博雄

コミュニケーションということばの由来は、ラテン語で「分かち合うこと」だそうです。また一般にコミュニケーション能力とは、感情を互いに理解し合い、意味を互いに理解し合う能力のことを言います。そこには、非言語的な要素である相手の表情や眼の動き、沈黙の間や場の空気などに注意を払うことで、相手の気持ちを推察するという力も含まれてきます。

この説明を一読しただけで、発達障害のある子どもたちにとって、コミュニケーションの道のりが険しいことを思わずにられません。私たち大人でもコミュニケーションのとり方は千差万別です。会話一つにしても口数の多寡、身振り手振りの動作や表情の特徴、間のとり方や相手の心の動きに対する反応の仕方など、一人として同じ人はいません。人それぞれのコミュニケーションのとり方から、私たちはその人なりの持ち味を感じ、その奥にある人間性まで想像します。

私は、自閉症の子どもたちが言語を獲得していくのに苦労している様子を見ていて、時折、日本人の私たちが、外国語である英語を学ぶ初歩のプロセスに、よく似ているのではないかと思うことがあります。私たちも英語としての生の言語感覚がないので、当初は英語圏の2歳ぐらいの子供が話すようにさえ、自由に言葉を紡げません。あくまでもことばを記号として、頭の中で考え、整理して言葉を作ります。助詞の感覚などはさらにありません。英語で何か話そうと思うと、まずは簡単な構文を丸暗記して使ってみるしかないのです。自閉症の子どもたちも全くそんな感じですから、苦労のほどが分かります。同じ構文を数多く練習し、その言い方に枝葉を増やすなどします。そして、文字や動画を活用したり場面を

想定して練習したりしながら続けさせていくことが必要ですが、簡単なことではありません。ご家庭においても日常の中で、基本的にことばの障害要素を持っていることを認識していたとしても、「どうして、こんな簡単なことが身につかないの?」と、じれったく思ってしまうこともあるかと思います。しかし本人としては、聞き慣れない暗号を覚えていく課題に立ち向かっているようなことかもしれません。しかも思うようにことばに出せないじれったさを一番感じているのは、言うまでもなく本人です。

どこまで他人の言うことを聞き取り、自分の思ったことを人に伝える能力を高められるかということには、かなり個人差があるのはご承知のとおりです。そしてまた、ことばの発達が十全になされれば、それで問題がなくなるかというところではありません。高度なレベルのやり取りではなくても、相手のことを素直に受け入れ、相手に受け入れやすいような自己表出ができることは、コミュニケーションにおけるとても大切な要素です。

会話が覚束なくても、社会で働き、周りの人たちに認められている学園の卒業生がたくさんいます。「何を考えているのか分からない人が多い」とよく耳にする今の社会の中で、本人の個性、持ち味、人間味を相手に感じさせ、周囲がその人の欲していること、考えていることを理解できるような動作やことばの使い方を、シンプルではあってもできるなら、それは結構レベルの高いコミュニケーションのあり方と言えるのかもしれません。

もしもです。私たちの世界がテレパシーでコミュニケーションする時代になったら、彼らは、意外と機微に満ちた素敵な想いを、私たちに伝えてくれるかも知れませんか?





あるお母さんとの出会い

それは英ちゃんが3歳のとき、当時、私が勤務していた研究所にお母さんと相談にみえたことがきっかけでした。いつもかわいい洋服を着て、親子で訪ねてこられ、ままごと遊びなどを一緒に楽しんでいました。

あるとき、自宅での様子をみて欲しいと頼まれ、訪問させていただきました。あれこれ家庭での過ごし方を話しているうちに、突然、お母さんから、「お父さんが亡くなったら、どうしたらよいのか」という質問を受けました。若いお母さんだったので、心配なのだなと思ひ、「これからは福祉も充実していくと思うので、今から心配しなくても大丈夫」と答えた記憶があります。この質問は、それから何回もされたので、印

象深く心に残っていました。

その後、幼稚園、小学校へと進み、直接お会いできなくなりましたが、必ず英ちゃんの成長を知らせてくれました。そのたびに、一緒に喜び、返事を書いたことを憶えています。

ある年、年賀状がこないの、こちらからその後の様子を尋ねました。ところがお父さんから、お母さんが亡くなったという手紙をいただき、あわててお線香をあげに伺いました。英ちゃんは、お母さんの写真やビデオを繰り返し繰り返し見せてくれました。彼なりにお母さんが亡くなったことを理解しているのだろうかと思ひになりました。お父さんから、お母さんの最後のことが、「えいいち」であり、最後まで子

コラム 出会い（1）

寺山 千代子（学園アドバイザーボード）

供のことが心配だったのではないかと聞かされました。

その後、英ちゃんは成人し、施設からグループホームに移り、土日には自宅に戻ってきているという報告を受けています。お父さんから英ちゃんの成長した写真が送られてくるたびに、お母さんのあのことが思い出されてきます。

（寺山先生は、永年の教育実践ののち、国立特殊教育総合研究所分室長、目白大学教授などを歴任されました。豊富な経験をもとに武蔵野東学園のアドバイザーボードとして様々なご助言をいただいています。）



療育プログラムのようす

アート教室 11月は家庭用のオーブンで簡単に焼成できる“オープン陶土”を使い、コップやお皿作りに挑戦しました。このオープン陶土は、油粘土よりも柔らかいため、成形の際には微妙な力の加減が必要でしたが、各自が思い思いの作品になるように土の色を組み合わせ、型抜きをするなど、装飾に工夫を凝らしていました。一週間後、しっかりと乾燥し、焼き上がった作品を手にとり「これ、ぼくのだ！」「星の模様、上手にできてる！」などと喜ぶ、嬉しそうな表情が印象的でした。（北川）

SST教室 挨拶や友だちとの関わりなど、基本的なソーシャルスキルについて、「自分はどうかな？」と振り返るための時間を設けています。それぞれが振り返った後に、みんなでプリント教材の読み合わせをしながら、正しい行動についての確認もしています。4月に初めて出会った友だちとの関係も深まってきていて、レクリエーションの時間などはとても盛り上がり、友だち同士の活発なコミュニケーションが生まれています。（大澤）

音楽教室 街が色鮮やかにライトアップされ、ウィンターソングが聞こえてくる季節になりました。音楽教室でも、小1～3年クラスはずずを使って「ジングルベル」、小4～6年クラスは、ハンドベルを使って「ひいらぎかざろう」「雪のおどり」などを練習中です。2月の発表に向けて、演奏マナーや友だちと心を一つにして演奏する喜びを身につけていってほしいと思っています。（高橋）

体育教室 4月から準備運動の中に「カエルとび、ワニ歩き、カンガルーとび」を加えて半年が過ぎました。少しずつですが床をしっかり蹴ることや、身体の操作性の向上が見られるようになり、前転や壁倒立ができる子どもが増えてきました。ある保護者の方から「家でもカエルにはまっています」などのうれしい感想を耳にしました。まだ、なわとびや跳び箱の単元がありますので、そこでも子どもたちの成長を見られることを楽しみにしています。（鈴木）

ダンス教室 手具を使った踊りを楽しみました。花を持ってポーズをとると子どもたちの間から思わず「うふっ♡」と声が…。ダンス教室ならではの女の子らしい表情が見られました。他にも、ポンポンやタンバリンを使った踊りもリズムカルに元気よく踊ることができました。現在は、2月に行われるミニ発表会の練習に取り組んでいます。振り付けを覚える真剣なまなざしに、どんな衣装を着せてあげようかとこちらの気持ちもぐっと盛り上がります。ストレッチや基本運動も引き続き行いながら、発表会の作品を完成させていきたいと思ひます。（新堂）

このコラムは4回シリーズでお届けします。



いろんなコップの完成！



普段の自分を振り返ろう



ハンドベル練習中



準備運動の視覚支援カード



発表会の作品練習



幼児 寒さが厳しくなってきました、教室は元気な子どもたちの声で一杯です。秋は、「芋ほり」「柿」などおいしい作品をたくさん作りました。そして、12月。待ちに待ったクリスマスを控え、リース、くつ下、ジンジャーマン、もちろんサンタにトナカイ。BGMにはクリスマスの曲を聞きながら、各学年それぞれの作品作りを楽しんでいます。さあ、みんなはプレゼントに何をお願いするのかな？ 1月に楽しい話が聞けることを楽しみにしています。どうぞ、素敵なクリスマスを。(本田)



たくさん飾りをつけたよ！

1年生 国語で「サラダで元気」を学習しました。紙芝居を使ってあらすじを確認するうちに、登場人物の出てくる順番や、サラダに入れたものを説明することができるようになりました。物語の内容が理解できると、文章読解の問題にも自信を持って答える様子が見られました。まとめとして、ちぎり絵でサラダを作りました。色紙を野菜に見立て、思い思いの「元気になるサラダ」を作ることができました。(新田)



何サラダにしようかな？

2年生 算数で「かけ算」を学習しました。最初は「～ずつ」×「いくつ分」の理解が難しかったのですが、挿絵や黒板教材を使って練習していくうちに、少しずつ理解が深まってきました。お皿に載った食べ物シリーズはもちろん、バスのタイヤやクリスマスツリーに飾る星の数など、興味のあるものを題材にすると集中力も高まりました。今後も身近なもの「かけ算」を結びつけていきたいと思っています。(後藤)



かけ算の式を考えよう



せーの、『それ！』

3年生 国語では、「こそあど言葉」をどのように使い分ければよいかに留意しながら、学習を進めてきました。自分に近いものを指す時は『これ!』、相手に近いものを指す時は『それ!』など、ジェスチャーを交えながら、楽しんで取り組んでいます。机上の学習だけでなく、様々な場面で、子どもたちに「こそあど言葉」を投げかけ、家庭や学校などの普段の生活に活かせるようにしていきたいと思っています。(宮川)



カップを使ったコミュニケーションゲーム

4年生 ソーシャルスキルを高めるためにゲームを取り入れています。2人組や4人組のゲームをできるだけ子どもたちが進行していくことで、「順番」や「友だちへの伝え方」、「勝敗に対しての意識」など多くのことを学ぶ機会になっています。「そこは、こうするんだよ。」「すごいな、よくできるね。」など、子どもたちの会話ははずんでいます。今後も、いろいろなゲームを紹介していきたいと考えています。(宮下)



正六角形ができたよ

5年生 算数では正多角形と円、立体といった図形の学習をしています。図形の単元で大切にしたいことの一つは“形の違いをよく見分けること”です。正六角形や正八角形となると、形も似てきますが、角や辺の数で名前が決まっていることを確認すると、プリントの中でも1、2、3…と角や辺の数を数えることで形を理解することができました。また、折り紙を使って正六角形や雪の結晶を作り、身近なもので確認をしました。(北川)



家族の分量のレシピブック

6年生 漢字2文字の熟語の学習では、下の字が上の字を修飾、対になる組み合わせなど、成り立ちを知ることで理解を深めました。熟語を使って文作りにも挑戦しました。比の学習では、ドレッシングやだし汁の材料の分量を比を使って算出しました。また、家庭で実践できるように、一人分のドレッシングの分量から家族分の分量を計算してレシピブックを作りました。(高橋)



プリント学習中

中学生 国語の学習では、中島みゆきの「誕生」の歌詞を学習しています。音読するだけではなく曲を聴き歌うことで、興味を持って取り組むことができるようになってきました。また、問いと解答欄が別になっているなど、形式の違ったプリント学習にも取り組んでいます。4月から続けているコンピュータ、ちぎり絵に加え、ハンドベルを使った音楽活動と、個人のスキルアップだけでなく集団を意識した活動にも積極的に取り組んでいます。(藤本)



Word練習風景

コンピュータ教室 4月からタイピングの練習に力を入れてきた成果が出てきており、中には大人顔負けの速さと正確さでタイピングができるようになった子もいます。最近ではWordやExcelの使い方も学ぶことで、より実践的な技術を身につけることを目指しています。また、インターネットを使った調べ学習では、検索ワードを工夫しながらいろいろなホームページを見て、得られた情報をプリントなどにまとめる練習も行っています。(大澤)



伝わるかな？

言語プログラム 今、子どもたちに人気なのは、積み木を好きな形に組み立て、その一つひとつの積み木の場所を相手に伝え、同じ形に組み立ててもらおうというコミュニケーションゲームです。「まん中に緑を置いておいてください。」「緑の右に赤を置いてください。」「赤の上に黄色の積み木を置いてください」などと相手に伝えていきます。うまく相手に伝わり同じようにでき上がった積み木を見たときは、「やった!!」とハイタッチをして満足そうな笑顔が見られます。(計野ち)



インクルーシブ教育システム構築という流れの中で (1)

副所長 計野 浩一郎

1994年サラマンカ宣言から17年余が経過した今、ユネスコをはじめとする国際機関の様々なプログラムや国連・障害者権利条約の発効（2006年12月、国連総会）など、インクルーシブ教育は21世紀の学校教育における国際的基準としてその地位を確固たるものにしつつあります。

日本は、2007(平成19)年9月に「国連・障害者権利条約」に署名しましたが、批准をしていません。批准するためには、条約の理念に基づいて障害者に関わる国内の制度を整備する必要があるからです。そこで、政府はどのように改革すべきかを内閣府の「障がい者制度改革推進会議」で論議し、2010(平成22)年6月に制度の改革の基本的な方向を「障害者制度改革推進のための基本的な方向（第一次意見）」としてまとめました。これには教育分野だけでなく「障害者基本法の改定（2011年7月参議院本会議で可決・成立）」や「障害者差別禁止法（2011年6月成立）」「障害者総合福祉法（仮称）」の制定など障害者制度の根本をなす制度についてもまとめられています。教育分野ではインクルーシブ教育を実現させるために「障害のある子どもが障害のない子どもと共に教育を受ける」という障害者権利条約のインクルー

シブ教育システム構築を踏まえ、体制面、財政面も含めた教育制度の在り方について、平成22年度内に障害者基本法の改正にもかかわる制度改革の基本的方向性についての結論を得るべく検討を行う」というもので、すでに方向性が確認されています。

一方、日本における特殊教育は、障害の種別に対応した教育を行うことが主流であったものから、2006(平成18)年の学校教育法改正で、特殊教育から「特別支援教育（実施は2007年4月）」に改められています。その後、2010年(平成22)12月の中央教育審議会総会において「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」がまとめた「論点整理」の中に、「インクルーシブ教育システムの理念とその方向性に賛成」であり、その構築のために「特別支援教育の方向性の検討」や「人的・物的な環境整備」、「教員の専門性向上のための方策」などの必要性が盛り込まれました。

インクルーシブ教育システムの有効性については各団体等の意見が分かれる部分が多いのも現実です。これから十分な経験的・科学的検証がなされていき、インクルーシブ教育システムのより良い形を模索していただきたいと思います。



平成24年度の療育プログラムのご案内

平成24年度療育プログラムの申し込みを受付中です。受講希望の方は、申し込み用紙またはホームページのフォームにて平成23年12月17日(土)までにお申し込みください。詳しい資料をご希望の方は、お電話かホームページで資料を請求してください。



武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

URL: <http://www.musashino-higashi.org>

教育相談のご案内

お子様に応じた教育法や接し方、進路についての悩みなど幅広く相談に応じています。お電話にて相談日時のご予約をお取りください。電話相談も受け付けております。

相談時間：60分（火～土 9:30～17:00）

費用：5,000円（教育センター会員 3,000円）



支援者のためのセミナーのご案内

第3回セミナーを以下のように実施いたします。まだ若干空きがございますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

【第3回セミナー】

平成24年1月31日(火) 10:00～12:00

「豊かな心を育む温かい身体の体験づくり」

今野 義孝（文教大学教授）

